

新山協ニュース

発行所 鈴木敏雄

発行所 新潟県山岳協会

〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男 TEL 0258-32-0428

指導員検定報告

検定員 三 富 一 弥

指導員検定の一次検定、氷雪技術は昨年に続いて銀山平荒沢岳山麓、石抱橋周辺の斜面で行なわれた。

今年は昨年より少雪が予想されたので二週間早めに行なわれたが思ったより残雪が豊富なため中荒沢に入るまでもなく石抱橋周辺の急斜面が検定会場になった。

5月15日午後1時石抱小屋に集合、開会、3時より論文に取組む、石抱小屋は今回新しく増築された、真新らしい部屋での論文書きは受検者のムードと熱気が部屋一ぱいに広がった。

表題「山と医療……」は、新らしく指導員になる受検者にとって最も大切な事で真剣に取り組まなければならない課題の一つである。

論文終了後、明日の実技の指導法が書かれた模擬テスト用紙の空白を埋める作業が始められ、明日の実技の指導法テスト用紙に熱心にペンを走らせている。そしてもう一枚

の用紙には、日山協の新確保法が載せられていて、昨年少し手直しされ、より安全で操作しやすくなった。この確保法は、明日の実技に検定されるため熱心に熟読が続いた。

終って、室賀会長始め受検者一同テーブルを囲み、夕食が和やかに進められたのは午後7時を回っていた。

5月16日、5時半起床、7時出発、予報では曇りのち雨ははずれ、素晴らしい快晴で空は青くまぶしい。県道沿いで石抱橋迄車で行き、石抱橋左側の急斜面で検

定会を始める。十分な準備運動後、アイゼン無し、アイゼン着装と続き、滑落停止は、背面回転と横倒回転、逆さスリップの技術をみせてもらう。又、指導法はピッケルについて、名称と使用法を各自に説明してもらおう。

最後の検定種目の、ザイルによる氷雪上における確保法、スターカット、コンテナアスの日山協の新確保法は、昨年より少し手直しされた為、受検者に少しとまどいがみられたので研修会に変更、各自が身につくまで何回も反復練習するが、ザイルとピッケルの握力の強弱がなかなかマスターしむずかしく、何回も反復練習しなければならなかった。

研修後、今迄の練習の成果として各自一回を本番として得点することにしたが、練習中にうまくいっているのに本番に失敗する人もあった。

この検定会を機会に正しい確保法を修得して自分の身に

つけて、それを持ち帰って各自会員に伝達して正しい確保法を普及して、事故を未然に防いで安全登山を指導して欲しいと願っています。

全ての検定が終わったのは10時30分、石抱小屋に帰って閉会式は望月副会長のあいさつをいただいたいて解散した。あとがき

昨年は例外として、岩と氷雪と学科と三科目に分け、一科目だけ合格点に達しなかった人に特典を考え、その科目だけの再検定を通知したが、残念ながら参加者はなかった。来年度からは最初から受検をしていただかなければならない。

本年度からは各科目60点上得点しなければ検定基準通り不合格となる。又、氷雪上における新確保法は、指導員全員が必ず修得しなければならない技術である。

指導員検定論文

指導員として

「山と医療」について、具体例をあげて
その考え方と、心構えを述べよ

田 卷 邦 彦

私が山登りを始めた頃の話であるが、テント内で事故を起した。コンロに掛けていた湯が沸騰したため、火力を弱めようとしたところコッヘルがひっくり返り、熱湯を左足の指に浴びてしまった。

私と他の二人のメンバーはすっかり慌ててしまい、私とはとっさに靴下を脱ごうとした。他の一人はこぼれた湯をふこうとし、もう一人はただオロオロするばかりであった。「早く水で冷やさなければ」と我に返ったのは、靴下を脱ぎ終ったからであった。先ず、傍にあった水筒の水を掛けて冷やし、次にテント

場の近くの沢水に足を入れて冷やした。2000Mクラスの秋山の夜風は冷たく5分間でテントに戻り、こんどは濡れタオルを当てて冷やしたが、痛さは増し、親指から3本の指は水泡となってしまった。「ヤケドには、油を塗るのが良いそうだ。」というので、焼肉用の油を付け、濡れタオルで冷やしながら眠ろうとしたが、痛さのためなかなか眠れないでいると、「痛み止めの薬なら持っているから、飲むか。」と言われたので「ヤケドの痛みにも効くのか？」と聞き返すと、それに対して

の明快な答が返って来なかった。反省すべき点は多かった。先ず、事故が起きた場合はなるべく冷静に判断し、行動する。翌日は、運良く下山の予定であったので、とにかく水泡を破らない様にといい、ガーズで保護し、靴で擦れない様に注意しながら下山し、医師の治療を受けた。

この事故は、結果的には、比較的小さな事故だとは思いますが、日程の半ばでの事故であれば、当然下山までの距離も長くなり、途中で水泡が破れ、膿化することも考えられ、予定通りの日程で下山することは不可能となるし、冬山での事故であれば、行動が鈍くなり、あるいは不可能となって重大な結果を招くことも十分考えられる。

又、夏山であっても、ヤケドの程度に依っては、歩行困難という事態にもなりかねず、そうゆう意味では、重大な事故であったと反省している。一方、応急手当についても、反省すべき点は多かった。先ず、事故が起きた場合はなるべく冷静に判断し、行動することである。そうすれば、靴下を脱がずにその上から水を掛けていたであろうと思う。それから後で判ったことであるが、ヤケドに油は厳禁ということがあるが、前述の様

な素人の生半可な知識により治療行為を行なうことは、症状を良くするどころか、むしろ悪化させることの方が多いので、慎まなければならぬ。救急薬についても、持っているものでもその使用方法について十分な知識がなければ役に立たず、前もって専門家の説明を良く聞いておく必要がある。

沢水で足を冷やす時間も、寒さを少しこらえてもう少し長く冷やしていれば、あるいは水泡にならなかつたのではなかろうか。

山に医師が居ることは少なく、仮に居たとしても医療施設がないため、事故や病気に

なっても治療することは殆んど不可能であるため、登山者一人ひとりが症状を良く観察し、経過が良くなりつつあるのか、悪くなりつつあるのか、正しく判断し、登山続行か、又は下山か、あるいは救助を要請するのか決定しなければならぬ。

この様な判断を下すために、日常的な事故や病気の救急法についての知識は必要となる。

しかしながら、救急法についての心構えとして最も重要なことは、その様な事態を避けること、即ち「予防」である。

前述の事故については、登山経験が浅いとはいえず、コッヘルを降してからコンロの火力を調節するという基本的な知識があり実行すれば、予防出来たはずである。

一般的に事故や病気を予防するためには、計画段階から

無理な計画を立てず、パーティーの力量に合った山、コースを選び、日程的にも睡眠不足とならない様に注意しなければならぬ。又、暴飲暴食には山行中はもちろん、日常から充分気を付け、ベストコンディションで山に入る様にしたい。睡眠不足や食欲不振は、肉体的疲労、精神的疲労

に継り病気や事故の原因となる。 トレーニングも予防には効果が大きく、筋肉、循環系統の機能の順応能力を高めるのに役立つ。

最良の救急法は予防であることを認識し、実行したいと思ふ。

指導員として

「山と医療」について、具体例をあげて

その考え方と、心構えを述べよ

藤井洋

登山の指導員としては、

①まず指導員みずからが必要最低限の知識を持ち、②隊員又は山岳会員がそれらの基礎的知識をいつでも応用して正しい処置をすることができるよう訓練することが大切であると思われる。

そこで、登山における医療としての特殊性をまず考えて

などの障害)

4、雨(寒冷)、雪、雷などの気象条件の特殊性(急激)

5、地形的な危険性

6、強い日光

など、平地と比較してはるかに悪い条件があることを知っていないければならない。

さらに、これらの悪条件のために、病気やけが生じて

も、「医者が近くにいることはほとんどない」ということが、登山活動における大きな特徴である。

そのために、指導員は常々から身体についての科学(基礎医学)を学び、後述する如く、「適切な判断と処置」がとれるようにしておかなければならないことになるが、次に登山における

1、激しい肉体労働(高カロリー)の消化、疲労、筋肉・心肺機能の消耗など)

2、前記の学的条件による身体

3、生活態様の变化による身体コンディションの変化

などに留意しなければならぬ。

体のコンディションの変化

ける医療について述べる。

まず、よく言われるように「良きリーダーはうしろから見て行くだけで前の人のコンディションがわかる」くらい

一般的には、外

的條件は

(図-1) ば(図-1)の病気・けがに示した

適切な処置をすることが望ましい。「不良」の状態のまま強行軍をして、本格的な病氣時には死に至る愚かさを時々見聞するが絶対にはやらないことである。

ここで心しなければならぬことは、われわれは医者ではないのであるから、「診察・診断」したり、「治療」をするのではないということである。われわれは、「判断」をして適切な「処置」をするのである。

そこで判断についてであるが、まず、その不良状況ないしは病気が、外科的な疾患か

「良好」の状態から「不良」

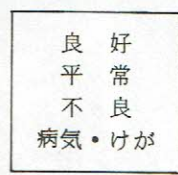
「病気」の状態に作用すると

「スポーツ」をやることがよ

きると同じように、登山に

おいても外的条件が常にマイ

ナスに作用するものではなく、



(図-1)

「良好」の状態から「不良」
「病気」の状態に作用すると
「スポーツ」をやることがよ
きると同じように、登山に
おいても外的条件が常にマイ
ナスに作用するものではなく、
はこれら外的条件がプラス
に作用して、身体をより強健
にするものであるから、常々
のトレーニング、身体の状態
を良好さを保つよう努力すべ
きである。

次に、実際の登山活動にお
ける医療について述べる。
まず、よく言われるように
「良きリーダーはうしろから
見て行くだけで前の人のコン
ディションがわかる」くらい
一般的には、外
的條件は
(図-1) ば(図-1)の病気・けがに
示した
適切な処置をすることが望ま
しい。「不良」の状態のまま
強行軍をして、本格的な病氣
時には死に至る愚かさを時々
見聞するが絶対にはや
らないことである。
ここで心しなければならぬ
ことは、われわれは医者で
はないのであるから、「診察
・診断」したり、「治療」をす
るのではないということであ
る。われわれは、「判断」を
して適切な「処置」をするの
である。
そこで判断についてである
が、まず、その不良状況ない
しは病気が、外科的な疾患か

内科的な疾患かを見極める。一般に外科的疾患は急な外的刺激によって起こり、急激に病的症状となる。例えば、やけど、骨折、ねんざ、切傷、凍傷、雪盲、だ撲などである。これに対して内科的な疾患は比較的ゆっくり症状があらわれる。

次に、これらの疾患が、進行性のものか、さらに進行した場合どのような悪い状態になるかを推測、判断をし、これらに対して適切な処置をする必要がある。

その処置のしかたを述べる。まず、外科的、内科的疾患とも「安静」が第一である。さらに外科的疾患については、患部の症状によって可能な限り適切な応急処置をする。その具体的な方法は救急法の分野となるので、ここでは述べないが、少なくとも指導員としては、止血、人工呼吸、三角巾の使用法、冷やす、温め

る、固定する、マッサージするなどの基本的な処置方法はマスターしておかなければならない。そして、それらの処置をしたうえで、できるだけ早く医者の所へ運ぶことが大切である。

次に内科的疾患についてであるが、先に記したように進行性であるか否かを判断すると同時に、明らかに原因となるものがあれば、それを除去することが大切である。ここで具体例をあげると、夏の飯豊連峰縦走をやっている時に、パーティーの女性二人が気分が悪くなって動けなくなった。その時は非常な好

まず、外科的、内科的疾患とも「安静」が第一である。さらに外科的疾患については、患部の症状によって可能な限り適切な応急処置をする。その具体的な方法は救急法の分野となるので、ここでは述べないが、少なくとも指導員としては、止血、人工呼吸、三角巾の使用法、冷やす、温め

ん、抹茶)を与えた。約30分ほどで元気が回復した。

このように、薬を与えることよりも、まず原因除去によって回復することを考えるべきであろう。一般に投薬というものは、医師の指示によって行なうべきであって、われわれが安直に判断をしてすることは厳に慎まなければならぬ。

また、仮りに発熱、腹痛、頭痛などの症状が発生した場合には、これらの対処療法薬

夏山登山技術講習会
6月26日〜27日
秀峰山岳会
小林 由 夫
土樽山の家を基地に57年度初心者岩登り講習会が行なわれました。
土曜日の夜山の家に集合、雨模様の中にもかかわらず38名のご参加をいただき、室賀会長、鈴木理事長のご出席

として、一般的なものの、原初的なものをできるだけ用いるようにし、特殊な治療薬は避けるようにしなければならぬ。また一度に大量を投与するのでなく、病状と回復の判断を常に注意しそれに応じた投与をすることも大切である。

以上、極めて基礎的な留意事項を述べたが、これらのことが正しくできるよう、常に勉強をし、その勉強に基づいて、冷静沈着に行動することが大切である。

を得て開講式、つづいて参加者自己紹介、コンパとなり、10時半天候は思わしくなく、明日も心配であったが、予定通り6時出発ということで部屋割、就寝に入った。執行部は班編成と雨の場合

の第2案を検討、今回初心者が非常に多いので雨の場合は万太郎谷滝ノ沢を中止することにした。

27日早朝5時、天候と今日の行動について執行部リーダー打合わせをする。昨夜からの雨は止んでいないし、すぐには上がりそうもないので、今日の講習は第2案とすることにした。

少しでも雨が上がったら外に出ることとし、それまで室内での研修とした。4班に分かれて、ザイルの結び方、あつかい方、安全ベルト、三ツ道具について、岩登りの基本的なこと、各班ごとに班リーダーを中心に2時間位行なった。

10時頃雨がやんだ。外に出ることとした。小屋から万太郎谷上流へ10分位の所に小さいけれど岩場があるので、ここで懸垂下降(20m位)と5m位の所で岩登りをする事とした。岩登りは体でおぼえ

ることが一番大切と、ヘタな講釈をするより各々が実際に岩につかまって、繰り返し練習するのが重要である。

懸垂3ヶ所、登攀ルートはだんだん多くなり6ルート位になった。

昼食の時間もなし(各自適当に食べる)、雨が降れば雨

具を着て、午後2時45分まで

小さな岩場であったが皆な一生懸命に、しかも楽しく過ごした一日だったように私は感じたが、

3時半、山の家にて閉講式、解散。雨の講習会でしたが、無事終了。

婦人部植物観察登山

婦人部副部長 加藤 記代子

参加者の方々から「参加して良かった」と意義ある言葉が聞けることは、主催者としては、この上もない言葉であります。

当然のことながらそれには、どのようないかな頭の痛いことです。原湿原を選びました。しかし基礎技術と知識を踏まえ、しかも楽しく、有意義であることが望まれます。よってそれを心掛け、残雪の登行・焚火と生活技術訓練・沢の登行・



全員集合 小松原湿原

誠に有り難く思いました。

今回は、日本山岳会婦人懇談会の方々の参加26名を含む85名もの参加である。

心配していた天候は、集合前日夜半から、忘れていた梅雨が思い出したように降り、うっとうしく当日を迎えた。徐々に雨があがってきたが、

どよりした空をガツクリ見上げせめて雨が降らないことを祈りながら、友の車で津南へ向う。あれはこれとは手落ちがないかなど脳裏をめぐらせ、事故なく意義あることを願って止まない。

三三五五こられ、17時45分から山田智子副部長の司会で開会式が行なわれた。平田婦人対策部長に続き齊藤平七さん、並びに婦人懇談会の高本

信子さんから挨拶をいただき、杉原八百樹さんからは「湯の平」の講演をお願いし、このたびお世話になった津南山岳会の清水迪男さんからコース説明をしていただいた。続く

て幻燈による植物説明を加藤

明文からツツジ科の植物にしぼって分類説明の後、青山和子さんからは、早春の低山の植物と題され、花に魅せられた彼女の秘められた清熱の一面を覗かされた。

お膳を前にしての開会式と講演であったから随分おなががついたところで、津南山岳会の桑原悌治さんの乾杯で懇親会が始められた。お互いに杯をくみかわし、雑談にふけ、心配していた日本山岳会との隔たりもなく、和気あいあいと宴は夏の夜空にこだまするかのようであった。

翌朝6時、昨夜の余韻を隠しながら、バスと自家用車にそれぞれ乗車する。

山間に深く入り込んだ秋山の郷を眼下に見て、1時間余の林道を大場径由で1340米まで行く。案に行ける幸せを感謝し、人の技の偉大さをま

たもや味あわされた。朝食をとり8時出発。青空

が広がり、薄日は心を快適に

させる。山道に入るとすぐブナの小木と雑木の暗い道になり、ツルコケモモが迎えてくれる。

昨日の雨の影響もあり、ヌルヌル道である。単調な暗い道の起伏を繰り返しているといつの間にかブナ林の古木滞りに入る。これを見上げながら登り切ると、いよいよ湿原に近づく。長初の小さな湿原からベニサラサドウダンツツジが見られる。鈴生りに花をつけた美事な紅色の満開を、幾度も幾度も感嘆しながら歩く。

散った花びらも足元を染め、またひととき味わいのある情景を演出している。

湿原の植物は、殊にそうだが非常に小さく、一見緑一色の淡々たる光景であるが、ゆっくりみるとモウセンゴケのいろいろな植物がある。

先発の加藤・青山組によって植物の名札がつけられ、名

を知らなかった方は、うなず

きでいる。その心情がわかるだけに、もっと思うようにさせてあげたいと、時間の速さを悔やむ。

ウラジロヨウラク、ハクサンシャクナゲ、モウセンゴケ、ツルコケモモなどの湿生植物は豊かである。木道予定区域以外は全く踏跡がなく、原生そのままである。足を踏み入れた心境だが、とてもその勇気が湧いてこない。従って皆さんにぜひ見せたいサワラ

ンだけは、見てもえなかつた。トキソウに一見似ているが、花の色が濃く葉が少々違う。山道にはなく湿原の中に

あるが、80人も湿原を歩くと、植物は生き返えられないので、やむなく涙をのんだ。迂回してでもお見せしようかと検討したが、地形的に無理なため心残りであった。

ある方は、植物に愛の表現を惜しみなくおくり、カメラに納め、なりふりかまわず寝そべて、覗きこんで大さわ

ぎしている。その心情がわか

るだけに、もっと思うようにさせてあげたいと、時間の速さを悔やむ。

メーンの小松原湿原は、池塘が点在しており、積雲をゆったり写し、誠にのどかな草原である。池塘の周囲は踏まれて植物は完全に死滅しており、淋しいかぎりである。ここにも私達のモラルと自然保護の要求が望まれる。

しかし、まだこの草原には原生の湿原の優雅な情景が十分残されており、安らぎがある。

一時をわずかな行程の中に過ぎ、植物と語り、友と語り、明日の糧にできた喜びを胸に、辿った道を引き返す。

帰路の途中、津南町歴史民俗資料館で津南の民俗に触れ、津南木工センターに立ち寄り津南に別れを告げた。

参加所属山岳会

日本山岳会26名、山岳同好会

新潟望遠13名、和島マウンテ
インクラブ11名、十日町山路
野会5名、映彩山岳会5名、
長岡ハイキングクラブ4名、
越後山岳会3名、柏崎山岳会
2名、下越山岳会2名、津南
山岳会2名、デラシネ山の会

1名、佐渡山岳会1名、越後
ハイキングクラブ1名、関川
村山の会1名、むささび会8
名。

計85名
(女性52名、男性33名)

第3回北信越国体報告

昭和57年8月27日、29日、
福井県怪ヶ岳を中心に行なわ
れ、当県から、成年女子、少
年男子、少年女子が参加しま
した。台風13号の影響が残る
中、選手は元気一杯競技しま
した。

雨と汗でびしょ濡れの中、次
々とテープを切っている。ゴ
ール後、天候は回復に向い、
台風一過の好天が期待できる
霧囲気となる。

少年男女の選手、監督は、
午後から各県との交換会。

27日、大野市南六呂師、奥
越青少年の森で開始式が行な
われ、その後真横からの風を
受けながら、幕営技術、天気
図作成の審査が行なわれる。

28日、強雨の中、踏査競技
のスタートが始まり、約3時
間後ゴールに入る。選手達は

成年女子は、永平寺町浄法
寺山(黒岩)まで移動して登
攀競技。お盆の時下見に入り、
競技ルート1時間ちょっとで
登る。2回目はアクシデント
があり全ルート登れずじまい。

今回は1時間を切ってゴール
するのが選手の夢である。当

県片桐審判員(島根国体成年
男子監督)の4時間に及ぶブ
ランコ審査の勝を、激励を受
けながら登る。春、ザイルに
さわり、結び方、ザイルさば
きをぎこちない手付きで初め
た頃とは雲泥の差。キリリと
引き締まった顔は、新潟美人
というより、逞しいクライマ
ー姿と言った方が似合う。見
惚れているうちにゴール。計
算係が「35分27秒でゴール。」
3人共ワァーと喚声を上げ喜
びを表わす。監督の掌からポ
タリと汗が落ちる。

29日、怪ヶ岳の縦走競技、
標高約400m下山させられ、
約1000mの登りである。

ギリギリの重量で出登するチ
ーム。余裕の重量で、特区间
手前で食事休憩を行ない、軽
くしてダッシュをかけるチ
ーム、様々である。尾根道は赤
トンボが舞う中、遠く九頭竜
川が大きく蛇行して行く、大
野盆地、勝山盆地を一望しな
がら、競技中の苦しさを忘れさ
させる霧囲気の中を歩む。

◎平田 大六
◎小笠原久美子
◎小池由美子
◎布川 文子
◎中村 政道
◎阿部 芳文
◎五十嵐洋義
◎渡辺 和宏
◎小林 光衛
◎宮崎 好永
◎牧野 敬子
◎大橋知弥子

以上の皆様ご苦労様でした。



協会・行事・活動報告

- 指導員検定会(氷雪技術) 6月6日 新発田市焼峰山
- 5月15日/16日 別記 他 9名参加
- 丹後山遭難者捜索 6月6日 新発田市焼峰山
- 5月30日 7名参加 日 協会傘下会員のご協力
- 理事会 6月5日 新発田 有り難とうございました。
- 10名出席
- 国民体育大会山岳競技規則 研修会 6月22日 新潟
- 国体県予選会会場下見

○夏山登山技術講習会(土樽)

6月26日~27日 別記

○山岳遭難対策講習会(塩沢)

7月5日~7日

○婦人部植物観察登山

(小松原) 7月17日~18日 別記

○新潟県登山祭(弥彦)

7月25日

○指導員検定会(登攀技術)

8月7日~8日

内ノ倉ダム

○第3回北信越国体(福井)

8月27日~29日 別記

○理事会 9月11日

新潟清松 15名出席

○理事会 9月19日

新潟井口宅 15名出席

○親睦登山(丹後山)

10月2日~3日

○第37回鳥根国体

10月3日~8日

第38回国体県予選会

日程の変更・会場通知

年間計画では、10月30日~31日に予定されておりましたが、左記のように変更します。期日 昭和58年4月下旬

月下旬予定)の会場地を兼ね、県予選会時、会場地整備、会場地把握をする。

◎ 県予選会から北信越国体までの選手強化期間が短くなり、各団体におかれましては、事前に、座学、

基礎体力等基本的な面の強化に励まれ、県予選会に多数の

参加、ご協力お願いします。

(新潟県、昭和58年8

参加、ご協力お願いします。

参加、ご協力お願いします。

あとがき

※ 協会役員になったら山へ行く回数が減った。自分の好きな山行ができなくなった。と言う声を聞く。また、協会

は一年中国体ばかりやっているのではないか、と言う声も聞く。国体関係は同じ山でも大きく扱われ、またその任

の人は強い責任感を背負わされる。とどのつまり責任を果たすべく行動する。

事務局も、協会ニュースに

関して、行事、各会紹介、各

地域山名の紹介、等読まれる

「便り」を目指して原稿衣類

状を発送する。ところが返事

はなしのつぶて。結局活躍す

る人々のところに原稿依頼状

が届き、二重、三重の負担を

背負ってもらうことになる。

※ 各会、団体から忌憚のない

意見を寄せてもらいたい。会

員有っての協会である。また

と美人選手。重苦しい国体の

新潟協ニュースは、各会に渡

る部数が少ないので、極力各

会会報等で、広く傘下の会員

に意志の伝達が通るようお願い

しています。雑音結構、批判

を期待します。

※ 10月30日~31日、北信越

5県国体山岳競技規則検討会、

富山県において開催。

※ 今年度中に、国民体育大

会山岳競技規則研修会が県内

会場で開催されます。指導員

2種以上の方々に受講資格有

り。今後県内会場で開催見通

し、今のところなし。この機

会に是非受講下さい。

※ 10月2日~3日、親睦登

山(丹後山) 正月遭難の千葉、

新井さん追悼式を兼ねて、40

名の方が参加、安全登山を祈

願し無事下山す。

※ 婦人部の行事参加者が年

々雪ダルマ式が増えてゆく。

恒例の協会行事参加者は横バ

イ、何がそんなに魅力的なの

か、参加者の一声便りを願

いします。